



「園小接続」について

小1プロブレムという言葉が聞かれるようになってから何年もすぎましたが、未だに園から小学校に進学する上での課題となっています。小1プロブレムは、保育園や幼稚園を卒園した後に、子どもたちが小学校での生活や雰囲気になかなか馴染めず、落ち着かない状態が数カ月続くことを言います。この解決策の1つとして「スタートカリキュラム」が計画され、園小の接続が進められています。今回は、園での学びと小学校での学びという観点から園小の接続について考えてみたいと思います。以下に、幼稚園教育と小学校教育とのつながりについてまとめてみました。

《幼稚園での学びと小学校での学びの共通性》

園と小学校で育みたい資質・能力は同じである。＝「資質・能力の3つの柱」

- ① 知識及び技能が習得されるようにすること
- ② 思考力・判断力・表現力等を育成すること
- ③ 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

《幼稚園で資質・能力の3つの柱を具体的に考えてみると》

「知識及び技能が習得されるようにすること」…豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分ったり、できるようになったりする

「思考力・判断力・表現力等を育成すること」…気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」…心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

◎幼稚園では、3つの柱に係る力を、個別に取り出して身に付けさせるのではなく、「遊びを通しての総合的な指導」で、一体的に育むことが大切

《幼稚園での学びと小学校での学びの違いについて》

○小学校…学習指導要領には、6年間に教える内容が定められている。→「教科指導を通して行う教育」

○幼稚園…教える内容は、幼稚園教育要領、(保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領)には明記されていない。→「環境を通して行う教育」

*そのため、幼稚園教育では、育みたい資質・能力が子ども達についているかをどのように判断するか(評価するか)が難しい
そこで、

《幼稚園教育での評価》

○幼稚園教育要領には、育みたい資質・能力に係り、5領域が明記されている(健康、人間関係、環境、言葉、表現)

○5領域のねらい・内容に基づき「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が位置づけられている

*この10の姿は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領共通

*つまり、園種は違って、園児の育ちを同じ視点で考え支援し、子ども達の出口保証をしていくことを求めている

*育てほしい10の姿の評価は、数値で行うものではない。また園児すべてに共通のものさしがあるわけではない

参考)「10の姿」とは、
健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

《幼稚園と小学校の接続に係る法的位置づけについて》

幼稚園教育要領

第1章総則の第3教育課程の役割と編成等の5小学校教育との接続に当たっての留意事項 より

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

小学校学習指導要領

第1章総則の第2教育課程の編成の4学校段階等間の接続 より

- (1) 幼児期の終わりまでに育てほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。また、(中略)特に小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通し育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成をおこなうよう努めるものとする。

《スタートカリキュラムについて》

スタートカリキュラムは、小学校へ入学したこどもが、幼稚園・保育所・認定こども園での遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。ですから、作成に当たっては、園と小学校が綿密に連携していくことが重要になります。

(以下「国立教育政策研究所」パンフより)

スタートカリキュラムにおいて、幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをしたりすることで、こどもは安心して小学校での生活をスタートすることができます。また、先生や友達と関わる活動を通して、出会いの喜びや学校の楽しさを感じることができます。こうした安心や楽しさは小学校での生活の支えとなり、いわゆる小1プロブレムなどの予防や解決にもつながります。

幼児期の学びを小学校への学びにつなげていく上で、園と小学校の職員がそれぞれの学びを理解すること、こども一人一人の学びの姿を共有することが非常に大切と言えます。小学校では新入生受け入れ学年の担当職員と教頭が必要最小限のやり取りをする程度で、接続が連携でとどまっている現状があります。また、園訪問の際、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、園小の交流活動がほとんどなされていないとの話も聞かれます。卒園児の情報は指導要録で小学校に伝えていくことになるわけですが、「ドキュメンテーション」「ポートフォリオ」などを活用し、園児の日々の記録の可視化と蓄積をし、園児一人一人の学びを小学校に分かりやすく伝え、相互のつながりが持てる体制を充実できるといいですね。(専門員)

○「スタートカリキュラム」には、幼児教育から小学校に引き継がれる共通の考え方が整理されている。

- ① 小学校低学年では、学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなげていくことが重要
- ② 小学校教育においては、幼児期に総合的に育まれた資質・能力や、子ども達の成長を、各教科等の特質に応じた学びにつなげていくことが求められる。
- ③ スタートカリキュラムにおける学習を、小学校におけるその後の学習に円滑につなげていく視点が大切である。

*しかし、小学校の学習指導要領の前文には、5つの目的が明記されている。（ラインボックス内）

- 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと
- 2 創造力を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと
- 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと
- 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと
- 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと

上記ラインボックス内の内容でもわかるように、

「幅広い知識と教養を身につけること」は、その中の一つにすぎない。このことをしっかりと抑え、「知識・技能の習得」に偏重した学びのためのカリキュラムにならないことが重要とされている。